

研究所だより

相良 孝雄

先日、銀歯である奥歯が取れました。翌日、歯医者で「歯の土台が溶けてしまっているので、『部分入れ歯』か『ブリッジ工法(歯のない箇所を左右の歯を削って、真ん中の歯を支える)』か『インプラント』でしか治せない」と言われました。インプラントやブリッジ工法で白色の歯を入れたら、保険適用がされず30万円前後するとのことであり、若いときに歯の手入れを怠ったことが1本の歯の土台を失ったことにつながったと思いました。

土台といえば、いささか無理な展開ですが、今年は協同総合研究所開設25周年を迎え、協同総研の土台の理念である「協同」を軸として、何のために、何を為す協同総研なのかを改めて考え、行動したいと思います。土台とは「物事の基本。もとい。基礎(広辞苑)」とあるように、「協同」を基礎・基本として、研究所の原則である「5つの原則^(*1)」を現代社会においての解釈と意味を1年かけて考えていく予定です。

6月11日に開催した第4回一般社団法人協同総合研究所の通常総会、総会記念フォーラム「“協同労働”徹底討論～関係性を紡ぎだす働き方～」を開催し、「人として生きること、働くこと」を焦点として、今年の研究が力強く動きだしたことを実感しました。12月3日に開催予定の「協同総合研究所25周年記念集会」を多くの会員と

ともに迎えられるよう、研究所が運動組織として準備過程から「協同」して集会をつくっていきます。

この間、4月24日の神奈川協同集会、5月15日の静岡協同集会、5月29日の茨城協同集会等、ワーカーズコープが事務局団体となり、県単位で「協同」を中心テーマにした協同集会が断続的に開催しています。この動きを滋賀県大津市で開催する「全国協同集会2017」(2017年10月7-8日、1日目びわこホール(確定)、2日目龍谷大学瀬田キャンパス(交渉中))につなぎながら、全国協同集会2017の事務局団体の1団体として協同総合研究所も参画しながら、「協同」の事業・運動・文化を広める役割を担っていきたいと思います。

今年の研究soの活動方針のテーマは「地域づくりと人間としての生き方をつなぐ“協同労働”を解明し続ける」です。これは協同労働を固定的な意味で捉えるのではなく、変動的に地域づくりと生き方から考えることを大切にしたいという思いからです。ワーカーズコープが協同労働で仕事をおこす時代から、住民が協同労働で地域づくりを展開する萌芽が生まれている時代に、「協同」をアイデンティティにした協同総合研究所の開設25周年記念事業を多くの会員とともに開催することを今年の研究soの最大焦点に位置づけ、尽力します。

*1 一 人類的(国際的)見地の原則 二 変革の立場の原則 三 人間発達重視の原則
四 実践と研究の結合の原則 五 自立の原則(1991年協同総合研究所設立総会確認)